

発明の名称: 体内部位発光装置

利用・用途・応用分野

医療、獣医療、生体内の細管内挿入

目的・課題

使用時や管理面で取り扱いが容易で生体内の細管内に挿入して細管内で発光させ、細管位置や走行状態を体腔内に挿入した内視鏡等から得た発光部位の画像をモニターを通じて視認でき、医師等の肉眼で開腹された患者の発光部位を視認できる体内部位発光装置を提供することを目的とする。

解決ポイント

生体内の細管内に挿入して発光させる体内部位発光装置。両端が封止され中空又は中実で可撓性及び光透過性の管状体からなる本体部と、内設される1つの発光部と、発光させるための化学的発光手段少なくとも2種類の薬剤を混合した化学発光体と、薬剤を分離する隔壁を発光部内部に備え使い捨てである。

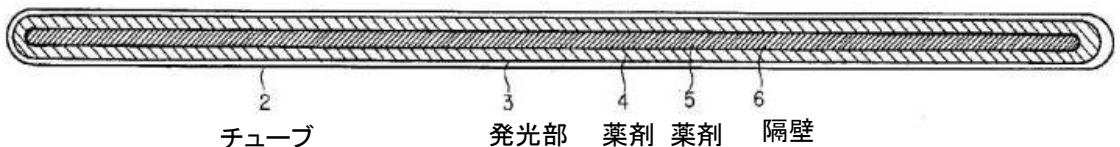
研究概要・アピールポイント

薬剤混合による化学発光現象を利用して化学的発光手段の再利用を防止し、簡単な構成で経済的装置を提供でき、体内部位発光装置の使い捨てを促進し、衛生的でコンタミネーション感染の可能性をなくすることができる。

本体部が括れ部でも自在に屈曲するので、本体部の剛性が調整され、体内の曲折した細管内への挿管をより一層簡単に行うことができる。

本体部接続の引出部を引っ張ることによって、生体内の細管内に挿入された体内部位発光装置を容易に体外に取り出せる。

体内部位発光装置



【体内部位発光装置の概念図】

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp